

県議員 奥村のり子の
しんぶん 赤旗 読者ニュース



2013年4月14日 第79号

—奥村のり子生活相談所—

〒640-8212 和歌山市杉ノ馬場 1-11
電話&FAX 073-427-7121

山下 書記局長代 が地震対策を調査
怖い南海トラフ地震に備えを

津波避難経路の看板
を見る山下よき書
記局長代行（左端）



4月8日、山下よき書記局長代行・参院議員が各自自治体レベルでの防災対策をすすめる上での苦労や、住民から直接不安の声を聞き、国政に生かすため来和されました。山下議員は災害対策特別委員でもあります。午前中は県庁と市役所にて担当課より説明を受け、午後からは本協の避難路を視察し、本協漁港では漁業者や自治会の役員さんから直接ご意見をお聞きしました。私も同席しました。県は3月25日「南海トラフの巨大地震」及び「東海・東南海・南海3連動地震」

による津波浸水想定を公表しました。南海トラフでは昨年の内閣府と今回の県の浸水面積の想定比較は1、5倍になっています。また、3連動と南海トラフを比べると県の浸水想定は2、4倍です。県は今回の浸水想定公表は「何としても逃げ切る」ためのソフト対策を中心とした防災・減災対策を検討するために想定したとっています。

「揺れたら逃げろ」
具体的な対策こそ

私の周りのみなさんの反応は「巨大地震がきたらしかたがない」とあきらめムードがあります。県は避難をあきらめず、揺れたら逃げるの徹底を訴えています。揺れたら逃げろの徹底を訴えています。政治が何よりも一人一人の命を大切にしているという具体的な対策こそ、住民のみなさんのあきらめない心を育てて行くことにつながるという、思いを強くもちました。（のり子）

* 関連詳細記事は日刊「赤旗」4月10日付け13面をご覧ください。
（写真右端が原やすひさ氏・中央がのり子）

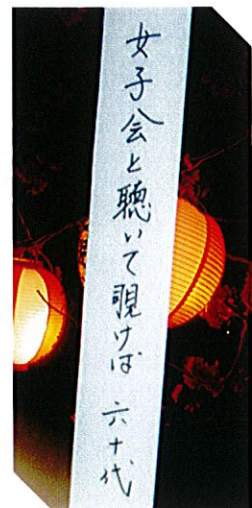
時にはユーモアな話題を

暗いニュースが多いなか、時にはユーモアな話題です。大門川沿いの桜並木に提灯とともに、地元自治会の呼びかけでたくさんさんの短冊が吊るされ通行人もニコニコ顔で見ている。何気なく撮ってきた3枚ですが字が読めるかなあと心配。虫めがねで見ると。（編集室）

一瞬「福沢」って誰？と…アツ1万円札のあの方だけと気付く。↓



↑ がっかり感…？
い～え、当世の60代女性はとてもピカピカ世代ですよ。



同感ですね。メタボリック症候群の予防に日々がんばらなくっちゃネ！ ↓



のり子の週間目録

（主なもの）

- 4月12日 近畿一斉朝駅頭宣伝、労組団体訪問 街宣、地域訪問
- 13日 くすみ後援会交流会
- 14日 田辺市議選告示、市高齢者大会 親ばと後援会トーク集会
- 15日 生活相談所つどい
- 16日 懇談 会議
- 17日 老人会バスツアー
- 18日 無料生活相談日

1989年4月1日

お忘れかも知れないが、消費税が導入された日だ。それからもう24年になる。日本の消費税はタチが悪いとつくづく思う。福祉のためという事で導入されたのだが、福祉はもう根っこから壊されてしまった。消費税のお力ネはどこに消えたのか。あれから24年ということ、和歌山市ぶらくり丁の商店街を歩き、消費税のことで懇談した。1年後の消費税8%への増税にはっきり「賛成」といったのは1軒だけだった。大多数の店主は「困る」「反対」「ふざけるな」などなどだった。

党県・副委員長
原やすひさ



消費税導入24年、ぶらくり丁での対話から



渡辺忠広市議（左）とともに対談する原やすひさ（中央）です

「この通り、見てよ。人ら通ってないやろ。シャッター閉めた店ばかりやで。消費税らより先にせなあかんことあるん違うん」と、吐き出すようにいう方。

「なあ、高かってもヨーロッパみたいに福祉がよかつたら、まだ我慢できるんやけどな」と、女性の店主。「取りやすいところから取ってだけ違うん」とも。

何人かの方は「嫌やけど仕方ないよ。もう値上げするの決まってるんやろ」と、あきらめ顔でいう。「参議院選挙の大争点にして、増税を中止させましよう」と訴えた。（参議院和歌山選挙区予定候補）

Relay talk

リレートーク

Relay talk